



今回の震災報道で、政府や電力会社、大手メディアの情報発信に「情報隠し」や「情報操作」が疑われ、国民は改めて情報内容や情報源のチェックの大切さを知った。適切な情報にアクセスするには、適確なキーワードの入手が必要である。美味しいキーワードの入手方法を提案したい。

## 第十二話 ウェブ検索の鍵となるキーワードを入手するには（2）

前回、大手マスメディアが紹介しない興味深い記事を探すには、週刊誌を探すのが役立つと指摘した。この検索の「キーワード」として、具体的な週刊誌の名称が利用できると紹介した。

さて、津波・地震や原発事故の被災地における被災内容や復興計画について知りたければ、被災地の市町村名、県知事の名前、地元紙の紙面名が、キーワードとして利用できる。しかも、これらの具体的な名称は、誰でも簡単に入手できる。

被災地の地元紙としては、福島県では「福島民友ニュース」、宮城県では「河北新報社」、「大崎タイムス社」といった地元紙がある。これらの地元紙の名称は、{XXX県 地元紙}、{XXX県、新聞社}と検索すればよい。次に、{福島民友ニュース 福島原発}、{岩手日報 復興計画}といった具合に検索すれば、被災地における具体的な情報が簡単に入手できる。

さらに、原子力発電所が設置されている県の知事の氏名を調べて、キーワード検索をすれば、被災地の復興対策に対する県のトップの姿勢を簡単に読み取ることができる。勿論、宮城県のホームページに直接アクセスし、調べることも併用すべきであるが。

ちなみに、宮城県の復興対策について、グーグルで{河北新報ニュース 村井嘉浩知事 復興計画}と検索してみると、「東日本大震災あす3ヶ月 村井・宮城県知事に聞く」、「仮設年内3万戸 漁業株式会社化も 宮城知事、復興計画語る」、「職任分離議れぬ一線 宮城知事、復興会議異論に反論」...といった地元ならでのニュースが入手できる。

前回に、外国政府や海外メディアによる情報を入手したければ、国際原子力機関（IAEA）や米合衆国原子力規制委員会（NRC）といった機関名や、WSJ、CNN、ロイター、BBC、ニューヨークタイムズといったメディア名を、入手すればよいと指摘した。

興味深いのは、隣国の韓国における福島原発の報道である。韓国のメディアは、我が国の様々に出来事に関して、高い関心を持って報道してきており、今回の原発事故も例外ではない。韓国の新聞社名は、{日本語で読める 韓国 新聞}と検索すれば入手できる。

韓国には、中央日報、朝鮮日報、東亜日報といった大手新聞があり、日本語で記事が読める。ちなみに、グーグルで{中央日報 福島}と検索すると、「福島の海水から放射性物質…韓国『日本産食品全数調査』」、「福島の海水、韓国に到達するのに5年」、「福島原発、放射線の解決に100年かかるとの見方も」といった韓国側の関心事を知ることができる。

更に、今回の福島原発については、「ウィキリークス」がキーワードとして利用できる。ウィキリークスが、日本の原発安全対策について米政府の公電内容を暴露しているからである。米政府関係者による、日本の原発の安全性にする憂慮を知ることが出来る。

ちなみに、{ウィキリークス 日本 原発}とキーワード検索すると、「日本の原発、テロ攻撃対策も不十分ーウィキリークスの米外交公電」、「日本の災害対応を米懸念『官僚縦割り』流出の米公電」、「米公電が指摘していた危険な日本の原子力(ウィキリークス)」といった記事が検索される。米当局者が憂慮していた事態を知ることができる。

さて、今年の夏は、原子力発電所の稼働停止による電力不足が懸念されている。経済産業省、東京電力、さらに大手マスコミ各社は、電力不足の危機を訴えている。節電の重要性は日本人誰もが納得できるが、電力不足は本当であろうか？

それには、「電力不足は起きない」と主張している人達の見解を調べて、双方の見解を比較することが、国民として健全な態度とってよい。この際のキーワードは、「電力不足のウソ」である。

このキーワードで検索すれば、「電力不足のウソ」を社説で展開している東京新聞の記事や、脱原発派、反原発派の人達の名前が入手できる。ちなみに、彼らの名前として、政治家の河野太郎、評論家の広瀬隆、京都大学の小出裕章... などの個人名が入手できる。

これらの人達の名前を「キーワード」にして、彼らの見解や提出した資料を入手し、原発推進派のそれらと比較して、自分の頭で判断することが大切になる。ちなみに、ネット上では、小出裕章著の『原発のウソ』(扶桑社新書、2011年6月発行)が大きな話題を集めている。書店の店頭では、ベストセラーの仲間入りするほどの売れ行きを見せているという。

さて、欧米ではドイツを筆頭に反原発や脱原発の流れが勢いを増す中で、この発端になった被災国日本で、原発推進(擁護)派の勢いが削がれていない。何故か。この疑問を解くキーワードは、「原発村」、「原発利権」、「官学産(または産官学)複合体」といった用語である。

また、日本の原発の特異なのは、福井県の13基を筆頭に、原発が一ヶ所に集中している点にあり、被害を大きくした。何故、一ヶ所に集中しているのか。これを調べるキーワードが、「原発銀座」である。グーグルで、{原発銀座 補助金}などと検索すれば、その裏事情を知ることができる。

今回、被爆を覚悟で懸命に作業していた原発労働者に対して、世界各地から賞賛の言葉が寄せられ、「フクシマ50(Fukushima 50)」と呼ばれた。しかし、原子力発電所で過酷な労働が強いられている事実を知ることが大切である。

これを知るキーワードに、「原発労働者」、「被爆労働者」があるが、この他に「原発奴隷」、「原発ジプシー」というキーワードがある。また、原発事故で強制避難をさせられた人々の事情を知るキーワードとしては、「原発難民」や「帰宅難民」という用語が有用である。

最近、地震や津波の研究者やマスコミの間で、過去の歴史的教訓に学ぼうという動きが強まっている。例えば、869年の「貞観地震」、1586年の「天正大地震」、1896年の「明治三陸津波(地震)」などの歴史上の事件が、ネット上を賑わしている。

これらの歴史的な災害名を、キーワードにして検索し過去の事例を調べてみると、震災直後にマスコミをにぎわした「想定外の事故」というのが、真っ赤なウソであったことが簡単にわかる。今後、歴史的な地震・津波に関する実証研究の成果が待たれる。

最後に、今回のような大事故や大事件が発生した場合に共通して使用できるキーワードを一つ紹介して、終わりにしたい。それは「特集」という用語である。どのマスメディアも、「特集コーナー」、「特集・連載」を連載している。{特集 福島原発}、{特集 地震}と検索すれば、新聞各社の紙面に特集記事が連載されており、事故の経緯や全容を簡単に把握できる。